

# ●三位一体後第一九主日 泉のほとり

今月の詩篇「第九五篇」

深い地の底も御手の内にあり  
山々の頂きも主のもの。



## もどって来たひとり

イスラエルは縦に長い国です。北はガリラヤ地方、南はユダヤ地方で、その間にサマリア地方があります。しかし多くのユダヤ人はガリラヤとユダヤを行き来するにも、サマリアを避けて通りました。

歴史的な経緯があつて、サマリア人とユダヤ人はお互いに憎み合つていたからです。主イエスも、サマリアの村人に拒絶されたことがあります。でも主イエスは何度も、サマリアを通られたのです。

ある時、主が、サマリアとガリラヤの間を通つておられると、ハンセン病にかかった人たち一〇人が、助けを求めて主に叫びました。この病氣は当時、治す方法がなく、死に至るので、恐れられていました。病人は家を離れ、町を出なければなりません。恐らくこの人たちも、村はずれの山の中か、谷底で暮らしていたのでしょう。そこでは、ユダヤ人とサマリア人が、一緒にいたのです。

彼らは「イエスさま、先生、わたしたちを憐れんでください」と叫びました。「憐れんでください」は、わたしたちの最後の祈りです。悲しみや苦しみが大きく、祈りの言葉さえ出ない時でも「憐れんでください」と祈ることができるのです。

主は彼らの声を聞いて「祭司たちのところへ行つて、体を見せなさい」と言われました。病氣が治つたことを祭司が確認すれば、家に帰れたからです。そう言われた時、彼らはまだ治つていませんでした。

が、主の言葉を信じて歩き始めます。そしてその途中で癒されたのです。

どんなに癒しかつたことでしょうか。彼らは急いで祭司のもとへ行きました。ところがひとりだけ、彼らに背を向けて、今来た道に戻つて行つた人がいました。彼は大声で神を讃美しながら主の足もとにひれ伏して感謝しました。主は彼を喜んで「立ち上がつて行きなさい。あなたの信仰があなたを救つた」と言われたのです。

この人が祭司のもとへ行かずに戻つたのは、病氣が治るよりもすばらしいことがあつたからです。それは主が自分のようなものを顧みてくださったことです。これはこの人がサマリア人であつたことと、関係があるかも知れません。憎まれても当然の自分を、主が癒してください。それが、何より癒しかつたのです。

病の癒やしを願つて、それが実現しても、それは救いではありません。自分の願いが、なお自分の中心にあるからです。でもこのサマリア人にとつて、一番大切だったのは、憐れんでくださった神さまでした。神さまを中心に据えて生き始めることが、救われた者の生き方です。その神さまに、彼は主イエスを通して出会いました。それが彼の救いだったので。

## 祈り

○ 暗い空を仰ぎつつ、今、御前に集められてまいりました。穏やかな日々、それだけがわたし共の人生ではなく、わたし共が楽しんでいない重い日々を迎えてしまうものであることを、今、御前に改めて思います。小さな陰りがわたし共の人生をちよつとでも侵すと、まるですべてが暗黒であるかと思ってしまうわたし共であります。

主イエス・キリストの父なる御神。そのようにしてわたし共はあなたを視野に入れることができなくなり、不信仰の罪を犯します。すぐにうるたえる罪を犯します。どうぞ今、わたし共の動揺、果てしない不信仰の心を、罪と認めて悔い改めることができますように。そして、どうぞあなたが義の太陽をもってわたし共を照らし、御霊の風をもってわたし共をさわやかに甦らせてくださることを信じていることができますように。

肉体が疲れを覚えております。それにも勝って、心はすぐに疲れてしまいます。そのために愛のわざに励むことができなくなりました。祈りのために膝をかかめることさえできなくなつてしまします。そこにも表れる白らの弱さを、罪として認め、あなたによつて助け起こされる幸いをここで知ることが

できますように。

久しぶりの友がここに集って参りました。その無事を喜び、その心にある闘いを思つて、あなたの慰めを願うものであります。そのために、あなたがわたし共をどのように激しく励ましてくださるか、すべての者がここでよく知ることができますように。そして、どうぞその励ましの声と手をもって病床にある友を支えてください。看病に疲れている者を慰めてください。

世にある悩みを思うときに、自分の信仰の仲間がそれに囚われていることを思うときに、わたし共の慰めの言葉もわざも小さい者であることを御前に恥じるものであります。どうぞ、あなたがわたし共と与えてくださる御霊と御言葉の力が、わたし共の存在を用ひまして、それらの人々に届きますように。あなたに仕えることを喜びとさせてください。この世界に、そのように仕えている人がたくさんいるのです。愛に生きるそれらの人びとのどんな小さなわざをもあなたが生かして下さつて、人がこの世にあつて豊かに生きるのには、この世の富ではなく、あなたの愛の豊かさによるものであることを証しさせてください。

愛に生きる幸いを、ひとりでも多くの者によく味わわせてくださいますように。罪人の頭たちの集まりが、主の憐れみを受けるこの時、すべてが御心に適うその時に、わたし共にも確かな平安を与えられますように。

主イエス・キリストの御名によつて、感謝し、祈り願います。アーメン

(加藤常昭「み前にそそぐ祈り」より)

## 今日のお知らせ

○ 第一礼拝後、教会学校と並行してロビーでのコーヒーサービスと、隔舎二階リズム室では、礼拝で受けた恵みを分かち合う「ぶどうの会」が開かれます。どうぞご参加ください。

○ 第二礼拝後、ホールで、讃美と報告の会をします。お屏はお弁当です。

○ 今週二四日(火)午後二時から、日本キリスト合同教会委員会が桜台教会で行われます。委員はご出席ください。

○ 吉村牧師は二六日(木)一二時三〇分から行われる明治学院白金校舎での礼拝で奉仕します。

○ 来週は桜台教会との講壇交換が行われます。第一・第二礼拝とも、桜台教会の中川寛牧師が説教をされます。

○ 少し先のことですが、一月二三日(木・祝日)午前一〇時半から午後四時までの予定で、説教塾の公開シンポジウムと伝道派遣礼拝が行われます。午後の伝道派遣礼拝では加藤常昭先生が説教されます。どうぞご参加ください。

○ 紫園香音楽伝道師は、本日、インマヌエル富士見台キリスト教会で、また二八日(土)、鳩山のぞみ教会で、チャペルコンサートでの奉仕をします。

## 四国だより

(一〇月一日のつづき)

私の所に一本の電話がかかり、「先生の書かれた記念誌を一気に私達家族は読み終えたところです。お証は全て、‘アーメン’です。礼拝出席させていただくの前に、是非とも家族でお話を伺いたく、教えていただきたい事もありますので、どうぞ宜しくお願い致します」。この展開こそは、主からのものと確信しました。二〇一七年八月十九日、初めてのご家族にお目に掛かりました。ご挨拶の時、すでに御霊の一致の中で、お互いがとても慕わしく思え、深い喜びに包まれていた事も不思議でした。

「もう一人の友人」なる方は岡田様という方で、六十代後半であるとお見受けいたしました。奥様と娘さん(結婚二年目)の三人でした。松山礼拝所のリーダーとして主が用いておられます。本部は北九州で牧会しておられる金牧師様で、教会名はフルゴスベル福音教会。主任牧師である金先生の御指導のもとにある松山礼拝所であると分かりました。そして、語られた言葉に絶句する程驚いてしまいました。「金先生はフルゴスベル神学大学・大学院の教授として務められ、退職後は牧会一筋に励んでおられます」。

では私にとっての恩師にあたる方だと思いました。岡田兄は、「是非とも金先

生に会っていただきたいのです。どんなにお喜びになる事でしょう。私達は今日出会いましたが、これは始まりであって、これから素晴らしい事が必ず主によって進められると信じます」と、とても喜ばれ、私もなんだか夢の様に思えるのでした。一冊の記念誌に導かれた奇跡を感動いたしました。これからは私が探し出したものではなく、主がすでに全てを備えて下さったからこそと、いつもながら胸が熱くなる思いでした。

後日、岡田様ご一家より伝道用に書かれた金先生の小さな御本と礼拝説教のCDが届きました。御本の中の金先生の写真を拝見し、私は更に驚くことになるのでした。

それは、かつて私が神学生であった時の夏の「特別授業」で「聖霊論」を熱く切々ととても分かりやすく静かな口調で指導下さったあの金先生でありました。また、CDから流れてくるお声にも懐かしさが込み上げてまいりました。生来のお声の響が、一度耳にすると忘れる事のないとても独特なものなのです。お声の響の中に主の謙遜や慈愛の深さが主の平安に包まれて、一人ひとりにやさしく悟しを注いでおられる様なお声。それをこの地で再び聞くことになろうとは。私は卒業生として恩師に尊敬の念をこめて、間もなく再会の日を希望をこめて主に祈りつつ、新しい心で主の時を待つております。

驚きと不思議を秘めた御恵みに感謝しつつ、「主よわが杯は溢れています」(詩二三・五)に思いをめぐらせ、ハレルヤ！と、主の聖名を讃えております。

主に在りて

二〇一七年九月七日 田端良恵

## 聖書の会

10月25日(水)

◎朝の聖書の会 10時

天国を見分ける

マタイ13章44〜52節

吉村和雄 牧師

◎聖書の夕べ 19時

「イスラエルの神は、

使徒13章13〜25節

黄允湜 副牧師

## ミニコンサート

11月9日(木) 12時30分開演

「楽興の時」OP16

ピアノ演奏 警谷 幸

## 次週礼拝

●第1礼拝(午前9時30分)

讃美歌II 59番 讃21・361番

説教 「高ぶる者は低く、低い者は高く」

聖書 ルカ18章8〜14節

説教者 中川 寛牧師(桜台教会)

●第2礼拝(午前11時10分)

讃美歌18番 399番

詩編 第95篇

説教 「伝道者の誇り」

聖書ヨハネ7章37〜39節

説教者 中川 寛牧師(桜台教会)



## 第1礼拝 (午前9時30分)

讃美歌 II 59番

讃21-361番

説教 「気を落とさずに祈る」

聖書 ルカ18章1～8節 (新約P143)

司式者 山下 純一 兄 聖餐司式 吉村 和雄 牧師

説教 黄允澁 副牧師

前奏曲 「アレグロモデラート」 J.ハイドン

○ 讃美歌第二編 59番

1. すべてのも<sup>の</sup>の統<sup>ら</sup>すかみよ

み名<sup>を</sup>をたたえ ほめうたささぐ

みめぐみゆたけく 正義<sup>を</sup>みつる

かみこそわれらの盾<sup>を</sup> また蔽<sup>ふ</sup>

2. よろこびもてささげまつる

うたはたかく みくらにとどき

ものみなどよみて こたえうたわん

「かみにぞみさかえ ときわにあれ」と

3. わが主<sup>は</sup>イエスにしたがいゆき

こころひくく日<sup>を</sup>あてはたかく

この世<sup>に</sup>わが主<sup>の</sup> み旨<sup>の</sup>なる

その日<sup>を</sup>をのぞみて われらいそしまん

○ ピアノによる讃美

「すみわたる大空に」 讃美歌II 144番

○ 讃美歌21-361番

1. この世はみな 神<sup>の</sup>世界

あめつちすべてが 歌<sup>い</sup>交<sup>わ</sup>す

岩<sup>も</sup>木<sup>々</sup>も 空<sup>も</sup>海<sup>も</sup>

み神<sup>の</sup>みわざを ほめたたえる

2. この世はみな 神<sup>の</sup>世界

鳥<sup>の</sup>音<sup>も</sup> 花<sup>の</sup>香<sup>も</sup> 主<sup>を</sup>をたたえる

朝<sup>日</sup> 夕<sup>日</sup> 空<sup>に</sup>映<sup>え</sup>て

み神<sup>の</sup>みわざを 語<sup>り</sup>告<sup>げ</sup>る

3. この世はみな 神<sup>の</sup>世界

悪<sup>魔</sup>の<sup>力</sup>が 世<sup>に</sup>満<sup>ち</sup>ても

わが心<sup>に</sup> 迷<sup>い</sup>はなし

主<sup>こそ</sup>がこの世<sup>を</sup>治<sup>め</sup>られる

聖餐曲 「メヌエット」 J.P. 邦

後奏曲 「フーガ」 F.メンデルスゾーン

## 第2礼拝 (午前11時10分)

讃美歌 53番 382番

詩篇 第95編 (旧約P933)

説教 「伝道者の誇り」

聖書 IIコリント11章7～15節 (新約P337)

司式者 山下 純一 兄

説教 聖餐司式 吉村 和雄 牧師

前奏曲 「幻想曲 ハ短調」 J.S.バッハ

○ 讃美歌53番

○ ピアノによる讃美

「すみわたる大空に」 讃美歌II 144番

聖歌隊による讃美

「救い主のみ手」 P.ホーリツ

羊<sup>の</sup>ように主<sup>を</sup>を求め 母<sup>の</sup>腕<sup>の</sup>子<sup>の</sup>ように

育<sup>て</sup>られるバラのように 主<sup>に</sup>守<sup>ら</sup>れる

深<sup>い</sup>間<sup>から</sup>救<sup>わ</sup>れ まことの愛<sup>を</sup>を知る

主<sup>は</sup>み声<sup>も</sup>て呼<sup>び</sup> み手<sup>を</sup>のべふれたもう

主<sup>の</sup>救<sup>い</sup>のみ手<sup>は</sup>

平和<sup>と</sup>豊<sup>か</sup>な世界<sup>を</sup>示<sup>し</sup>導<sup>く</sup>

み言葉<sup>の</sup>平安<sup>を</sup>知り まことの望<sup>み</sup>見<sup>い</sup>だす

主<sup>の</sup>愛<sup>は</sup>輝<sup>い</sup>て 世界<sup>に</sup>満<sup>ち</sup>る

あなたが心<sup>を</sup>開<sup>い</sup>て み言葉<sup>を</sup>聞<sup>く</sup>なら

共<sup>に</sup>おられる主<sup>のみ</sup>手<sup>に</sup>気づ<sup>く</sup>ことでしょう

救<sup>い</sup>主<sup>のみ</sup>手<sup>は</sup>平和<sup>を</sup>をな

命<sup>と</sup>救<sup>い</sup>に導<sup>い</sup>てくださる 平和<sup>の</sup>主<sup>のみ</sup>手<sup>は</sup>

命<sup>と</sup>救<sup>い</sup>に導<sup>い</sup>てくださる 平和<sup>の</sup>主<sup>のみ</sup>手<sup>は</sup>

○ 讃美歌382番

聖餐曲 「バッハの名によるフーガ」 R.シューマン

後奏曲 「フーガ」 F.メンデルスゾーン

× 礼拝には、聖書、讃美歌、礼拝のしおりを毎週お持ちください。